



BETHEL通信

2024年4月号（第249号）

松山ベテル病院 松山市祝谷6丁目1229番地 Tel089 - 925 - 5000

ホームページ <https://www.bethel.or.jp/>

昭和は遠くなりにはけり？

4月から医局長を拝命いたします小川 仁です。よろしくお願いいたします。

先日ある病棟の看護師長が、若手看護師の履歴書を見て絶句していました。何事かと思えば「あなた2000年生まれなの？」とのこと。師長も（おそらく）昭和生まれなので、2000年生まれの看護師が身近にいることに驚いたようです。私も10年ほど前には新人医師に「平成生まれなの？」と驚いていたのですが、月日が経つのは早いものです。今年は2024年ですので、2000年度生まれの医師が4月から医療現場に出てくることになります。

私は一昨年秋からベテル病院に勤務しておりますが、その前は仙台にある大学病院に勤務し、医学生生の指導にも従事しておりました。お腹の手術を専門とする「消化器外科」を教えていましたので、学生達からしばしば、「外科医に必要な素質は何ですか？手先の器用さですか？」といった質問をされました。「愛だよ、愛」と真顔で答えると、私の風貌からは想像できない答えだったらしく、大抵の学生は笑い出しました。「愛で分かりにくければ、“人間という生き物を好きだと思う気持ち”が一番大事な素質だよ。一人前の外科医になるには相応の努力が必要だけど、原動力になるのがその気持ちだよ」と説明しても、彼らは腑に落ちない様子でした。（ちなみに手先の器用さと手術の上手さはほとんど関係ありません。）

ベテル病院の基本理念であるキリスト教の「愛」とは少し違うのかもしれませんが、外科に限らず「人間という生き物が好き」という気持ちがなければ、一人前の医師になり仕事を続ける事は難しいのではないかと思います。おそらく医療に関わる全ての職種はそうでしょう。私が教えた学生たちも、仕事をしているうちに分かってくれることと思います。

30年以上前、医師になりたてのころ指導医から「一番多くの、そして大切なことは患者さんが教えてくれるのだよ」と言われました。これは時代が変わってもITが発達しても変わらない真実でしょう。ベテル病院を利用される方の多くは昭和前半の生まれだと思いますが、医療従事者として大切なことは何なのか、日々患者さまやそのご家族から教えていただいております。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

（内科医師 小川 仁）



春の訪れ

原稿執筆時（2月末）、確実に春が近づいております。昼夜の寒暖差がかなりあり、昼は花粉が飛んで目・鼻がムズムズします。原稿依頼がありましたが、特にこれといった話題もないので、読書家ではない私でもこれまで心がムズムズした本を紹介します。稚拙な書評はご容赦ください。

・「修身教授録」 森 信三 著

引っ越し時に（本が厚くて）邪魔になり何度か処分したが、結局忘れられずに買いました。Kindle等の電子書籍版がまだなさそうで残念。まるで「道徳」の授業を聞いているようです。全79講ありますが、一講義は長くなく読みやすいです。特に、「下坐行」が好きです。例えば、日常診療でうまくいった時でも奢らずに周囲の環境に感謝する、という心境に自然となり・・・こころが洗われます。

・「友情」 山中 伸弥 著

著者はノーベル生理学・医学賞 山中先生です。ミスターラグビー・故 平尾誠二氏との出会いから、闘病最後の1年が書かれています。「ラグビー」「同い年」という共通項からはじまり、「利害関係のない大人の友情」に至るまでの、スーパースター同士の人間模様が素晴らしい。世の中は理不尽なことが沢山あるが、しゃあないと覚悟を決めて、粘り強く出口を見つけることで成長する、いうことを、ありきたり一般人の自分でも少しやれるのではないかな？・・・と勇気をもらえます。

・「りんごかもしれない」 ヨシタケ シンスケ 著

好きなので大人だけど児童書を一冊。うちに帰ったらテーブルにりんごが一つあったところから想像が始まります。当たり前のように目前にあるものでも、実は違った見方が沢山あるのだ、ということ、言葉遊びをしながら子供でも楽しく学ぶことができる本です。次男が大好きな本で、小さい頃に 何度も一緒に読みました。著者の絵本はいずれも面白いですが、やっぱりこれ。「もしかしたら、お父さん・・・じゃないかもしれない」と言われましたが、「お父さんです」と答えたのは、懐かしい思い出です（笑）。

（外科医師 藤岡 真治）



ワクチンのお話



1. はじめに

新型コロナウイルスの流行を背景に、2021年より新型コロナウイルスワクチンが接種開始となった事もあり、ワクチンは皆さんの生活の中で身近なものになっているのではないのでしょうか？今回はこのワクチンについて取り上げていきたいと思えます。

2. ワクチンの歴史

ワクチンの歴史は18世紀にまで遡ります。最初の成功例は、1796年にイギリスの医師のエドワード・ジェンナーが天然痘ワクチンを開発したことです。彼は牛痘（牛の伝染病）に感染した牛飼いかから取ったウイルスを使って、人々を天然痘から守りました。この発見がワクチンの始まりで、その後さまざまな病気に対するワクチンが開発されました。

3. ワクチンの働き方

ワクチンの働き方は、体の免疫システムを訓練して病原体に対する防御機構を構築することです。ワクチンには、弱体化または無害化された病原体や、その一部が含まれています。ワクチンが体内に導入されると、免疫システムはそれに対して抗体を生成し、将来の感染に備えます。もし本物の病原体が侵入しても、免疫システムは迅速に反応し、病気を防ぐことができます。

4. ワクチンの種類

ワクチンの種類は大きく挙げて3つに分けられます

- ① 不活化ワクチン：病原性をなくした細菌やウイルスの一部が原料となっているため、実際にその細菌やウイルスに感染する事なく免疫をつける事ができます。不活化ワクチンの代表例には、インフルエンザ、肺炎球菌ワクチンが挙げられますが、冒頭でふれた新型コロナウイルスワクチンも、不活化ワクチンの一種でメッセンジャーRNAというウイルスの蛋白質を作る設計図を体内に入れる事で、免疫をつける事が出来ます。
- ② トキソイド：性質は不活化ワクチンに近いのですが、細菌などが増殖する過程で生じる毒素を無毒化したものを原料に用いています。トキソイドの代表例には、破傷風トキソイドが挙げられます。
- ③ 生ワクチン：病原性を弱めた細菌やウイルスそのものを成分としたワクチンです。そのウイルスや細菌に自然感染した場合とほぼ同じ免疫をつける事が出来ます。生ワクチンの例としては、麻疹・風疹ワクチンや水痘ワクチンがあります。

5. まとめ

抗菌薬が細菌やウイルスに対して攻撃する剣に例えるなら、ワクチンは感染症に対しての盾になるものです。不活化ワクチン、トキソイド、生ワクチンが、体の中で免疫力を育て、感染症から守ることが出来ます。定期的なワクチンを受け、健康な生活を手に入れましょう。



(薬剤師 主任 藤方 智也)

外来診療日のお知らせ

◎豊田 泰孝 医師（精神科・心療内科）

4月3日（水）、4月17日（水）

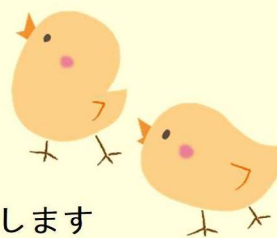
◎多田 聡 医師（神経内科）

4月より 診察日を隔週木曜日から毎週木曜日に変更いたします

◎益田 紀志雄 医師（整形外科）

4月より 診察日を毎週月・水曜日から毎週水曜日のみに変更いたします

◎4月より毎週月曜日 ^{つぎた}次田 ^{やすのり}靖功 医師の整形外科/リハビリテーション科
診察が始まります



松山ベテル病院では、接遇目標・医療安全推進目標をかかげています

4月 接遇目標

① 挨拶
② 笑顔
③ 態度
④ 身だしなみ
⑤ 言葉遣い
意識しましょう

接遇の5原則

二〇二四年 四月の接遇目標

聖愛会

接遇委員会

接遇委員会

3・4月 医療安全推進目標

適切な環境を作って骨折を予防しましょう

🔍入院時にADL 状況に関する情報をしっかり収集しましょう

🔍『見守り』が必要な患者様はいつでも必要な介助が行える態勢で見守りましょう

🔍その人にあつた離床キャッチのモードに設定しましょう

🔍部屋を出る前に転倒転落防止機器がON! になっていることを指差し確認しましょう

3月・4月の医療安全推進目標 安全

医療安全委員会

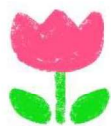
新人紹介

たかおか あけみ
高岡 明美

配属部署：リハビリテーション課

職 種：リハビリ助手

抱 負：初めての職種でのお仕事になりますが、早く慣れ、頑張りたいです。



人の世も

はかなきもので

桜散る

（青葉 綾子）

九十超えて

ドアに映る

我が姿

（西村）

梅園を

ひとり漕ぎゆく

車椅子

（河田 和子）

ベテル旬会

- ・投句箱を外来・各病棟に設置しています。皆様のご投句をお待ちしております。
- ・『ベテル通信』について、ご意見やご要望を「ご意見箱」へお寄せください。
- ・掲載中の写真についてはご本人、ご家族様の許可を得ています。

発行日 2024年3月25日